

夢

飯館中学校1年 伏見 将



多くの将来の夢は、プロのサッカー選手になることです。

ぼくがサッカーを始めた理由は、和史君と一緒にサッカーやろうといわれた事がきっかけでした。練習は火曜日と金曜日でした。最初のころは練習に休まないで行っていましたが、試合には行っていませんでした。でも、日が流れるにつれて試合に行くようになっていきました。それで2年生のおわりごろには6年生が出る試合に出ています。3年生のころにはサイドバックで試合に出て、県大会にも出場しました。4年生のころの新人戦では、背番号9番でセンターフォワードで試合に出ました。5年生のころは県トレセンといって、県代表の選手としていろいろな大会に出場しました。背番号は県代表のときは14番。チームでは9番でした。そして6年生でも県トレセンに選ばれ、埼玉県の大会、静岡県県の大会、岩手県の大会などいろいろな県の大会に出場しました。あと、この年は東北トレセンに選ばれ、クラブチームのしどう者などにいろいろな事をおしえてもらいました。

チームでは、福島県総合体育大会で優勝しました。絹の里サッカーフェスティバルでも優勝、メセナ杯、フレスコキック杯では準優勝しました。

この年は、数えきれないくらいたくさん点をとりました。この点数のほとんどのアシストが、サッカーを一緒にやろうといってくれた和史君でした。ぼくは、和史君と一緒にサッカーをしていると何かわからなくな

るくらい楽しい気分になりました。

プロになるためには、まず自分の「技術」をみがくことです。技術をみがくためには中学校の部活の練習を休まないで行き、吉田先生の話などをよく聞き、考えながらプレーすれば技術も向上すると思います。あとではできるだけトレセンなどレベルの高いところでプレーすることで、しだいに自分のレベルも上がると思います。

次に、プロになるために必要な事はフィジカルです。フィジカルが向上すれば、どんな大きな人が相手でもふきとばされないでフィニッシュまでもっていきけると思います。あとは、プロになるにもならないにしても大切なのは勉強です。ぼくは、頭の良い方でもないし悪い方でもありません。なので、たくさん勉強して頭の良い方に入れるようがんばりたいです。

今、僕が目指している高校は青森山田、野洲、鹿児島実業です。もしもその高校に入れなかったら多々良学園、その高校にも入れなかったら富岡高校か小高工業か相馬高校か原町高校に入りたいです。そして、高校で何も問題をおこさず、大学にできれば進学したいです。大学でも高校でも、県の代表に入り県のトップメンバーでプレーし、スカウトの目に入るように活躍したいです。そして、プロに入ったらJリーグでも活躍して、日本代表に入り、ワールドカップに出場し、そしてワールドカップで優勝したいです。ワールドカップで優勝できなくても、海外でもプレーしてみたいです。Jリーグで活躍し、海外のクラブからオファーがくれば、今は海外のクラブでプレーする気まんまんです。それで、最大の夢は世界最高のフォワード・サッカープレイヤーになることです。

追いかけていこう

飯館分校1年 武田美由紀



心の中でなり響く鼓動。見上げれば「ドンッ」と広く真っ青な空の下で私は今、走ろうとしている。この日が私の一番初めの大会だった。そして、夢を追いかけるスタートでもあった。

小学生の頃からお姉ちゃんが走るのを見ていて、私も中学生になったら陸上をやりたいと思っていた。昔から体を動かすことは好きだったが、長距離だけは辛いから嫌いとこの思いがあった。しかし、市町村対抗ふくしま駅伝を見てから私の心が動き始めた。

走っているのを見た時、みんなすごい顔をして走っていた。しかし、それはおかしくして笑える顔ではなかった。どの選手を見ても必死で、見ていると「力」が入ってしまふほど頑張っている顔だった。そんな必死に走っている人の顔がとてもかっこよく見えた。そして、走り終えたみんなの顔は、とても良い顔だった。これを見てから、私は小学生の頃の夢というか、目標は市町村対抗駅伝を走ることだった。小学生の頃はこれが、とてもとても大きなことのように思えた。

中学校へ入学し、バレーボール部に入部し、特設で陸上をやり始めた。中学校駅伝のメンバーに選ばれた時はとても嬉しく思えた。しかし、それ以上に市町村対抗駅伝の選手に選ばれた時は、夢なのかと思うくらいに嬉しいという気持ちが込み上げてきた。始めたば

かりの時は、とにかく走ればいいんだと思っていたが、監督に「まずは、人としてきちんとしなければだめだ、走るのはその次だ」と言われた。

こんな監督はめずらしいなと思った。また、監督は私たちと毎日、練習をしてくださっていて、すごいなと思った。監督といえば、ただ練習メニューだけを置いていって、見ているだけだというのが私の中のイメージだったが違っていった。生徒とても近い立場にいて同じ気持ちになってくださって、苦しいのも楽しいのも一緒に味わっていた。私は、そんな監督に出会い、教えるという仕事をしたいと思った。監督のようになり、生徒と一番近い立場で人の幸せを分かっている気がする。小学生の頃のように何でもただやりたいという気持ちではなくなっていた。本当に教師という仕事をしたいと思った。私は他の人には教師になりたいということを書えなかった。なぜなら、無理だと思われるのが怖かったのかもしれない。しかし、監督に「将来は、何になりたいんだ」と言われた。私は、少し笑いながら「先生とも考えています」と言った。私は頭が良い方ではないので笑われるかと思ったが「いいな」と言われ、少し嬉しくなった。それから、もっと強く教師になりたいと思った。

そして今も、それを追い続けている。その夢をつかむまで、私は追い続けようと思う。監督に出会ったことにより、夢を見つけることができた。この時、私は人との出会いは素晴らしいものだと思うことができた。